

まとめ

今回の調査では、掘立柱建物4棟をはじめとする中世(13世紀)の集落跡を確認しました。

曾我部町内には、未調査を含めて複数の中世の遺跡が分布し、特に北側に位置する犬飼遺跡では、巨大な堀で囲まれた方形居館が確認されています。南側に位置する春日部遺跡では、建物を囲うL字に曲がる溝(12世紀)の一部が見つっています。金生寺遺跡は、春日部遺跡より新しい時期に営まれ、犬飼遺跡の居館(13世紀後半~14世紀前半)より古い時期に営まれた集落と考えられます。

金生寺遺跡では、犬飼遺跡や春日部遺跡で見つかったような建物を囲う堀は確認できず、建物も簡素で出土遺物日常的に使われるものでした。犬飼遺跡や春日部遺跡のような有力者の住む集落ではなかったと考えられます。今後、発掘調査によって得られた情報や資料を基に、亀岡盆地に分布する中世集落の様相について検討していきたいと思ひます。

最後になりましたが、今回の発掘調査にご参加いただいた皆様、地元の皆様、ご指導、ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。



写真6 土坑1遺物出土状況(西方向から)

こんしょうじ 金生寺遺跡 第5次調査 現地説明会資料

調査場所 亀岡市曾我部町法貴コモ原
調査期間 平成31年4月12日~令和元年8月末(予定)
調査機関 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター



図1 調査地位置図

金生寺遺跡について

金生寺遺跡は、曾我谷川・犬飼川・法貴谷川によって形成された扇状地上に位置しており、これまで土師器・須恵器などの遺物が採取されていましたが、遺跡の詳細は不明でした。

平成30年度から令和元年度にかけて、国営ほ場整備事業に伴い発掘調査を実施し、掘立柱建物等が見つかり遺跡の様子が徐々にわかってきました。今回の調査では、現在の集落の東側に近接する調査区で、中世の建物跡などを確認しました。その成果について報告します。

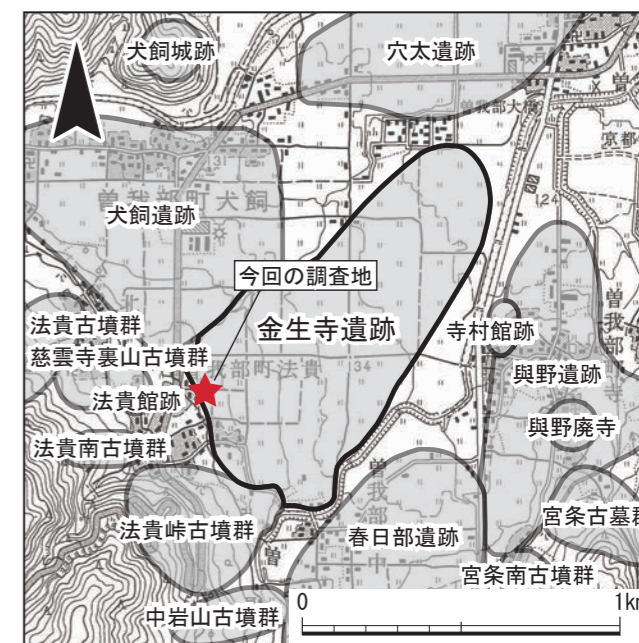


図2 調査地位置図(国土地理院 S=1/25,000 法貴)

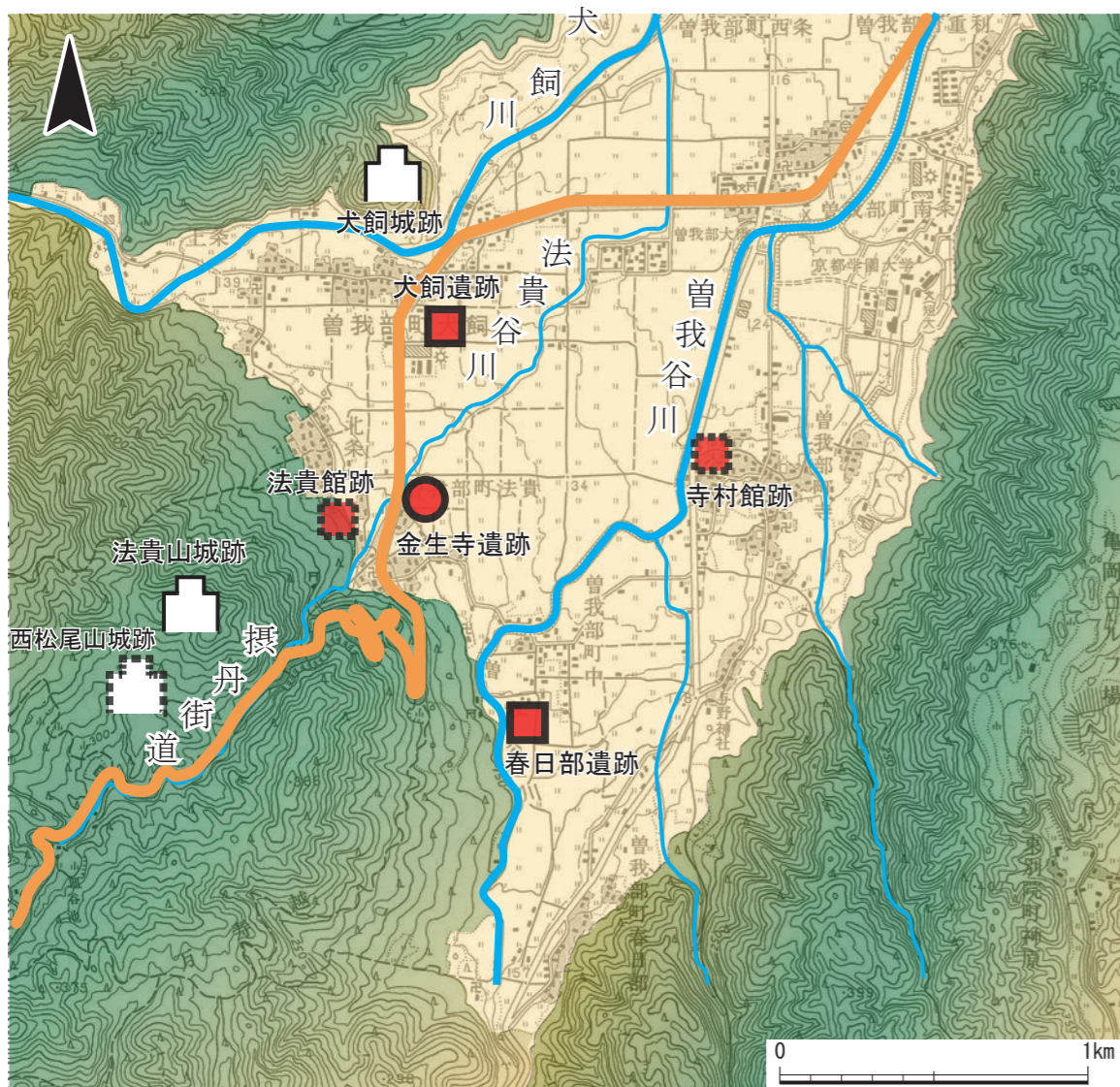


図5 曾我部町に分布する中世の遺跡と周辺環境(国土地理院 S=1/25,000法貴)

| | |
|------------|-------|
| 旧石器時代 | |
| 縄文時代 | |
| 1 弥生時代 | |
| 古墳時代 | |
| 710 飛鳥時代 | |
| 794 奈良時代 | |
| 平安時代 | |
| 1185 鎌倉時代 | 春日部遺跡 |
| 1333 南北朝時代 | 金生寺遺跡 |
| 室町時代 | 犬飼遺跡 |
| 安土桃山時代 | |
| 1603 江戸時代 | |
| 近世 | |
| 近代 | |

- 中世集落
- 中世集落(方形居館)
- 中世居館(未発掘)
- 城郭
- 城館類似遺構



写真1 掘立柱建物2検出状況(西方向から) ※赤い破線で囲んでいる部分が柱穴です。

中世の建物や土坑などを確認

A-1地区では、掘立柱建物4棟、土坑、溝状遺構などを確認しました(写真1・2、図4)。

掘立柱建物1 調査区の北西部に位置し、桁行7.4~8.1m、梁行約5.3mを測る東西方向の建物です。

掘立柱建物2 南東部に位置し、桁行7.7m、梁行5.3mを測る南北方向の束柱がある総柱建物です。

掘立柱建物1・2どちらも床面積は約40㎡の広さがあり、建物の軸はわずかに西方に振ります。

2棟の建物が建つ検出面では、南西に位置する丘陵から流入したと想定される土石流の痕跡を検出しています。下層から古墳時代の管玉が出土していることから、土石流は古墳時代以降に土石流が流入したとみられます。

掘立柱建物3 掘立柱建物2の北西側に位置する小規模な総柱の建物です。桁行5m、梁行4.7mを測ります。掘立柱建物2とは近接しているため、時期差があると考えられます。

掘立柱建物4 掘立柱建物3と重なる東西方向の小規模な建物で、桁行4.7m、梁行2.8mを測ります。

掘立柱建物の柱穴内の出土遺物から、13世紀代(鎌倉時代)の建物と考えられます。

土坑1 掘立柱建物2の北側に位置します。不整形楕円形をしており、南北約2.1m、東西約1.3mを測ります。鎌倉時代の土師器や瓦器椀などが多量に出土しています。

その他の時代の遺構 中世以降と考えられる不整形の土坑や耕作に関連すると思われる素掘り溝を複数検出しました。

出土遺物 鎌倉時代の土師器・瓦器椀・陶磁器などがあり、下層からは須恵器や管玉などが出土しています。



写真3 集石遺構上部の梵字刻印石材 (南方向から)

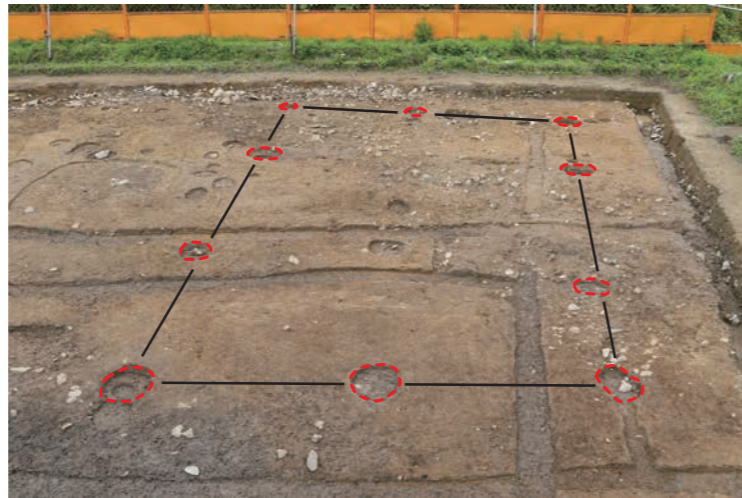


写真2 掘立柱建物1検出状況 (東方向から撮影)
※赤い破線で囲んでいる部分が柱穴です。

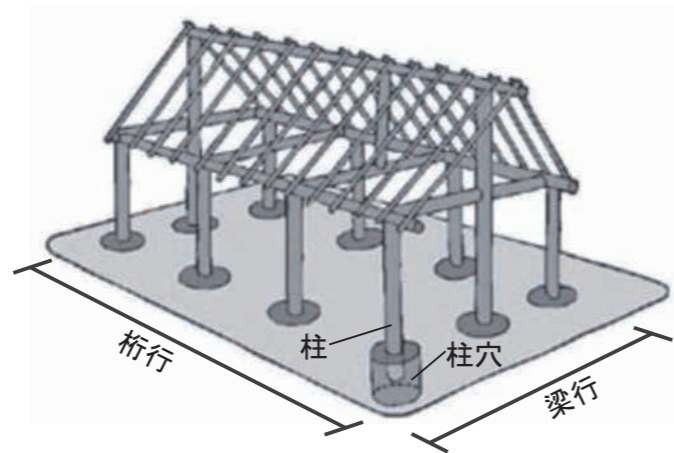


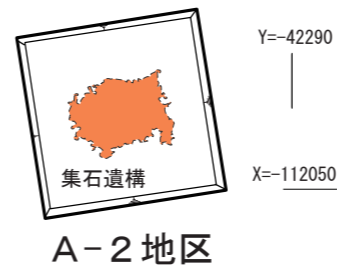
図3 掘立柱建物復元図

掘立柱建物は、地面に穴を掘り、穴の中に柱本体を立て、その周りを土で埋めて固定して建てられた建物です。

集石遺構について

A-2地区は、A-1地区の北西約25mの地点にあり、ここに集石遺構があり、地元の方々の間では墓であると伝承されていました。

調査前は、写真4のように径約2.5m、高さ約0.4mの塚状の高まりでしたが、表土を除去すると、写真5のように、東西3m、南北2.1mの範囲に、大きさ0.1~0.4mの石の集石を確認しました。集石の上部には、梵字の刻印された方形の石材(石塔の一部)がありましたが、集石の下部には、遺構はありませんでした。集石の中からは12世紀から17世紀の土師器・須恵器・瓦器椀・陶磁器などが出土しており、少なくとも17世紀頃までに形成されたものと考えられます。



A-2地区



写真4 集石遺構調査前状況 (南方向から)



写真5 集石遺構検出状況 (南方向から)

X=-112060

X=-112070

X=-112080

X=-112090

X=-112100

X=-112110

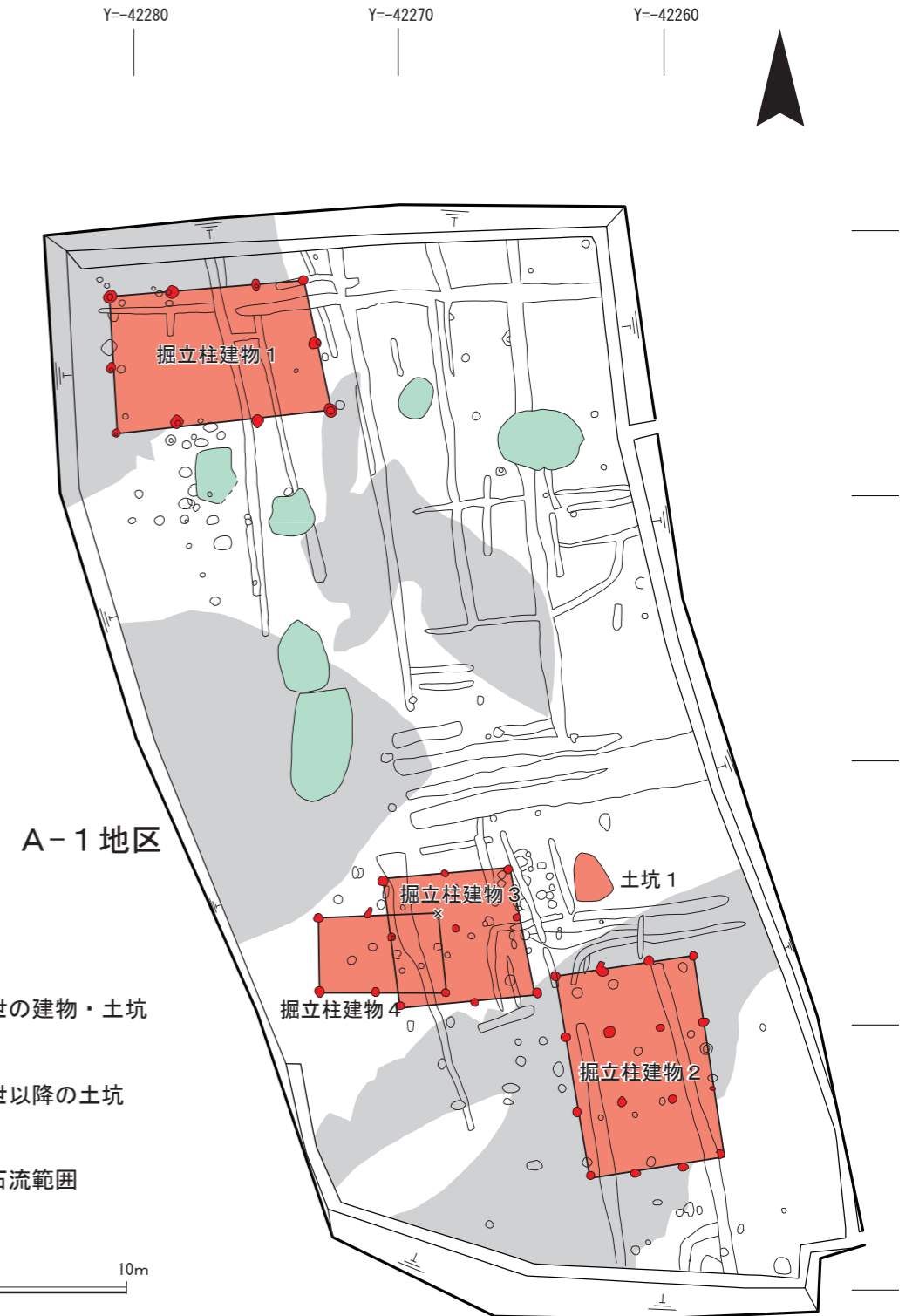
Y=-42290

X=-112050

Y=-42280

Y=-42270

Y=-42260



A-1地区

- 中世の建物・土坑
- 中世以降の土坑
- 土石流範囲

0 10m

図4 A-1・2地区平面図 (S=1/250)